

海燕社の小さな映画会 2016

1月「イヨマンテ～熊送り」

(製作:民族文化映像研究所/1977年/103分)

2016/1/30(Sat.)14:30～

日本映画ペンクラブ推薦/1989年第3回イタリア・フェルモ国際北極圏映画祭「人類の遺産」賞
/1991年第5回エストニア・ペルノー国際映像人類学祭最高科学ドキュメンタリー賞

イヨマンテとは、イ(それを)・オマンテ(返す)という意味で、熊の魂を神の国へ送り返すまつりをいう。

アイヌ民族にとって、熊は重要な狩猟対象であるとともに神であり、親しみと畏敬の対象であった……

日時:2016/1/30(土)

場所:沖縄県立博物館・美術館 美術館講座室 (1F)

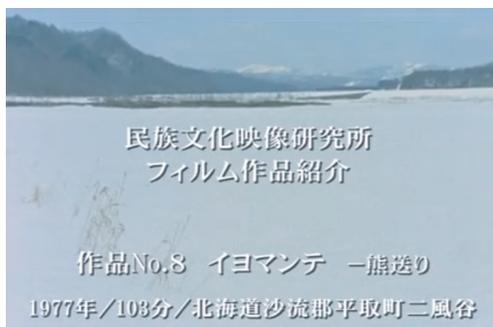
時間:14:00開場、14:30開始 (16:15終了)

※途中入場はできません。

料金:1,000円(要予約)

※先着順、定員に達し次第、締め切らせていただきます。

電話:098-850-8485(海燕社/カイエンシャ)



【作品解説】 イヨマンテとはイ(それを)・オマンテ(返す)という意味で、熊の魂を神の国へ送り返すまつりをいう。アイヌ民族にとって、熊は重要な狩猟対象であるとともに神であり、親しみと畏敬の対象であった。熊は神の国から、毛皮の着物を着、肉の食べ物を背負い、胆(い)という万病の薬を持って、アイヌつまり人間の世界へ来てくれる。そのお礼に人間界のお土産を持たせ、また来て下さいと送り返すのだとアイヌは言う。

1977年3月上旬、このイヨマンテは行われた。指導にあたったのは二風谷アイヌ民族資料館の萱野茂さん。

「本物のイヨマンテを覚えておきたい」というアイヌの青年たちの熱意に支えられて、まつりは実現した。

準備。山から材料の木や草を集めて、祭祀道具を作る。酒やまつりの食べ物を作る。

イヨマンテが始まる。熊は檻から出され、ヌササン(祭壇)の前に連れていかれる。花矢が次々に射られ、最後に矢が射られる。その前でニヌムチャリ(クルミと干魚を撒く)をする。アイヌの村は豊かで楽しい所だと神の国に言づけてもらいたいという願いが込められている。またアイヌペウレブ(人が熊の役をして遊ぶ)や網引きをして、豊猟を祈る。

ヌササンの前で熊の解体。肉は作法に従いカムシケニ(肉を背負う木)にかけられる。次いで魂が宿っているとされるオルシクルマラプト(毛皮をつけた頭)をチセ(家)に招じ入れ、火の神との対面をする。そして夜を徹しての宴。

2日目深夜、ウンメンケ(頭の化粧)。鼻先と耳の毛だけを残して熊の頭から毛皮が取られ、目、下、脳も取り除かれる。そしてイナウキケ(木の削りかけを使った祭具)や麴、笹で美しく飾る。その頭骨をユクサパウンニ(熊の頭をのせる木)にのせ、カムイシント(神の乗り物)をつけ、性器をつるし、祭主のしるしをつけたパスィ(へら)をつるし、着物を着せ、土産を持たせる。そして3日目早朝、ケオマンテ(なきがら送り)の儀式が行われる。

イヨマンテは、アイヌの自然観、生命観が凝縮したまつりである。生命体である人間と他の生命体である動物との対峙。そこには人間の信仰、文化の原初への啓示がある。



海燕社の小さな映画会 3月はー

作品:「食卓の肖像」
(製作・監督:金子サトシ/2010年/103分)

日時:2016/3/26(土)

料金:1,000円 ※途中入場はできません。

場所:沖縄県立博物館・美術館
美術館講座室 (1F)

時間:14:00開場、14:30開始(16:15終了)

※お問い合わせ 098-850-8485(カイエンシャ)